



乙女保育園の運動会（10月9日）

平成21年度各会計決算の認定、一般会計補正予算、
第6次総合計画基本構想、過疎地域自立促進計画・・・②～③
論点 Q & A そこが知りたい・・・④～⑤
一般質問6人 ここが聞きたい・・・⑥～⑪
傍聴席から一言・子ども議会・・・⑫

平成21年度 決算

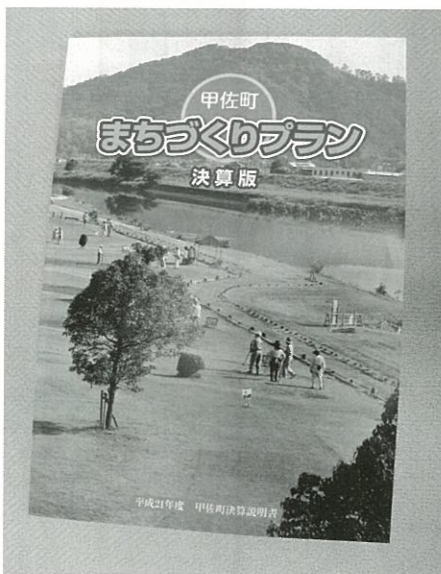
9月定例会

平成21年度各会計歳入歳出決算額

会計別内容	歳入	歳出	差引額
一般会計	58億4087万円	54億7218万円	3億6869万円
国民健康保険	17億2078万円	15億9591万円	1億2487万円
老人保健	1632万円	1180万円	452万円
介護保険	12億580万円	11億6196万円	4384万円
後期高齢者医療	1億2160万円	1億2046万円	114万円
住宅新築貸付	21万円	9万円	12万円
合計	89億558万円	83億6240万円	5億4318万円

水道事業会計

収益的収入	1億6476万円	収益的支出	1億3297万円
資本的収入	2億1459万円	資本的支出	2億8581万円



町から配布の「甲佐町 まちづくりプラン 決算版」

決算の認定

平成21年度一般会計歳入歳出決算の認定については、賛成8人、反対1人で認定した。

歳入歳出差引額が3億6868万9606円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源9861万2000円を差し引いた、実質収支額は2億

7007万7606円である。

このうち財政調整基金への繰入額は1億3600万円となる。

そのほかに、国民健康保険、老人保健、介護保険、後期高齢者医療、住宅新築資金等貸付の各特別会計及び水道事業会計についても、

認定した。

※詳しくは、町から配布の「甲佐町 まちづくりプラン 決算版」をご覧ください。

一般会計補正予算

7872万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、49億3122万1000円とする補正予算を全会一致で可決した。

主なものとして、

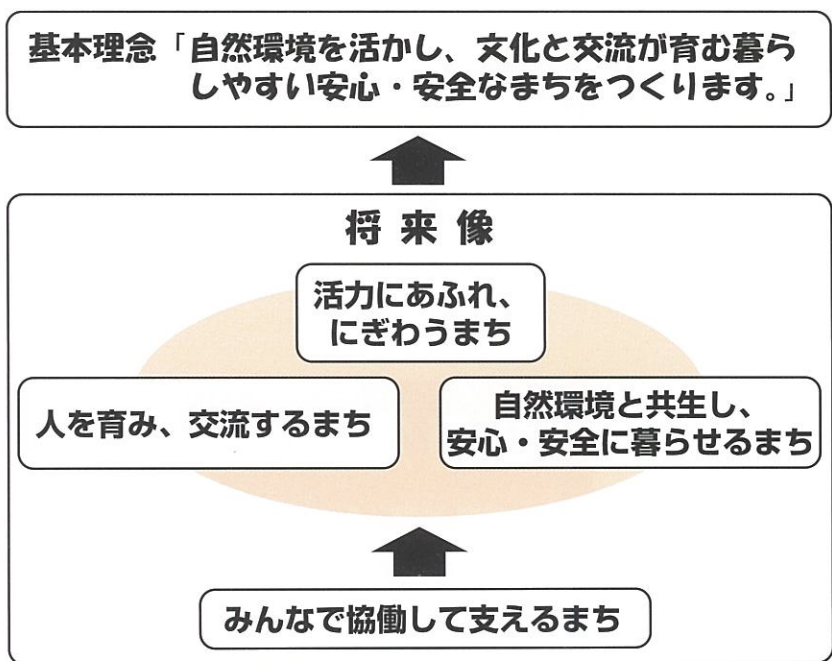
- ① トレーニングセンター改修工事費 240万円
- ② 水田地域営農体制整備支援事業費補助金 323万9000円
- ③ やな場改修工事費 3597万円
- ④ 急傾斜地崩壊対策事業負担金 465万円
- ⑤ 町道改良舗装工事費 520万円
- ⑥ 上揚住宅用地保全工事費 700万円
- ⑦ 消防格納庫建築工事費 100万円

町の将来ビジョンが明らかに

第6次総合計画基本構想

「人口増による町の活力の再生」をキーワードに、平成23年度から平成32年度までの10年間における本町のまちづくりの運営指針となる「基本構想」が提案され、全会一致で可決した。

基本構想の概念図



総合計画

基本構想・基本計画・実施計画の総称。

基本構想

町の将来像や基本的施策から成り、計画期間はおおむね10年。議会の議決が必要。

基本計画

基本構想における将来像を具体化、体系化したもので、計画期間は、前期計画・後期計画とも、おおむね5年。

実施計画

具体化された施策の実施内容、実施時期などを明らかにしたもので、計画期間はおおむね3年。毎年、見直しが行われる。

過疎地域自立促進計画

平成22年度から平成27年度までの6年間、過疎地域自立促進特別措置法の失効期限が延長された。それに伴い、今後6年間の過疎対策事業の計画が策定され、全会一致で可決した。

主な事業として、

- ① 町道の骨格道路の整備
- ② やな場改修事業
- ③ 中山間地域等直接支払交付金事業
- ④ 農地・水・環境保全国上対策事業
- ⑤ 産業後継者育成対策助成事業
- ⑥ 特産品開発事業
- ⑦ 宮内地区交流センター整備事業
- ⑧ 町営バス運行事業
- ⑨ 地方バス運行対策事業
- ⑩ 浄化槽設置整備事業
- ⑪ 耐震性貯水槽整備事業
- ⑫ ごみ分別収集対策及びリサイクル対策事業
- ⑬ 生ごみ処理機設置モデル事業
- ⑭ 保育料負担軽減事業

- ⑮ 子ども医療費助成事業
- ⑯ 延長保育促進事業
- ⑰ 介護・訓練等給付事業
- ⑱ 重度心身医療費助成事業

【要旨】

も賛成多数により原案のとおり可決した。

- ⑲ 甲佐中学校校舎改修工事及び関連施設整備事業
- ⑳ 特別支援教育支援員配置事業
- ㉑ グラウンドゴルフ場管理事業
- ㉒ 陣ノ内館跡調査事業
- ㉓ 甲佐町史発行事業
- ㉔ 定住促進団地整備事業
- ㉕ 住宅開発支援事業
- ㉖ 定住促進対策支援事業
- ㉗ 行政運営交付金

- ※事業の全部が採択されるわけではありません。
- 外国人地方参政権付与法案提出に反対する意見書採択を要望する請願書

【請願内容】

以下の理由により、要旨に掲げた内容を盛り込んだ意見書採択を求めます。

- ① 外国人参政権付与は、憲法上問題がある。
- ② 教育の中立性が危うくなる。
- ③ 国の安全保障が危惧される。

西坂 親議員が紹介議員となり、日本会議熊本会長 木村 仁氏から提出されたこの請願書は、賛成多数により採択し、衆参両院議長及び関係各大臣宛の意見書について

ここが知りたい

Q & A

9月定例会 質疑より



改修が計画されている、農林漁業者トレーニングセンター

農林漁業者トレーニングセンター改修工事について

Q トレーニングセンターの改修工事が計画されているが改修工事の内容は。

A 改修工事の内容は、多目的トイレ及び階段部分に手すりを設置する工事で、県の体育館バリアフリー緊急整備事業を利用して施工する。

工事費は、全額、県の補助金で、金額は240万円である。

落雷による役場庁舎の被害について

Q 落雷により役場庁舎が被害を受けたが、被害の内容は。

A 7月10日及び16日、25日に落雷があった。

被害の内容は、中央監視装置、加圧給水ポンプ、監視カメラユニット、非常用発電機、エレベーターの防災監視盤、浄化槽機械室の制御盤、防災行政無線等に被害を受け、被害額は2700万円程度である。

これらの復旧工事費用については、建物共済保険に加入していたので、ほぼ全額保険で対応する。

債務負担行為の額について

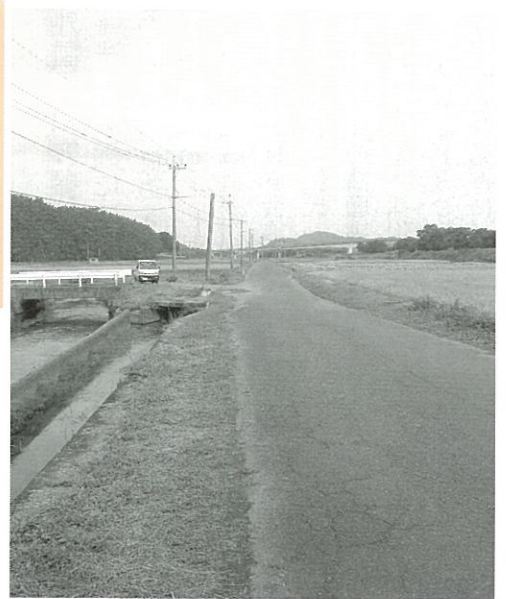
Q 債務負担行為の合計額は現在どのくらいか。

A 平成22年度から5年間程度で、2億8000万円ほどの債務負担行為がなされている。

町道における物損事故の損害賠償額について

Q 町道で物損事故が発生し、損害賠償金が専決されているが、今までのような事例はあるのか。

また町道の管理方法は、どうしているのか。



事故防止のため、町道管理のパトロール強化を

A 町道の側面の舗装が欠けていた所にタイヤが入り込み、パンクしてホイールも損傷した事故での賠償である。

このような賠償事例は、要件は違うが数件発生している。

町道の管理方法については地域の区長さん、住

平成21年度において財産の売り払いについて

Q 平成21年度に財産が売り払いされているが内容は。

A 内容は、県道用地として川平キャンプ場の一部、広域農道用地として椎茸栽培場、元甲佐駐在所、老人ホーム、緑川保育所などがある。

金額で一億2000万円余りである。



固定資産評価額の下落で税減収

21年度固定資産税の減少について

Q 21年度の固定資産税が20年度と比べてかなり減少しているが、理由は。

A 固定資産の評価額は、3年に1回、評価替えを行う。

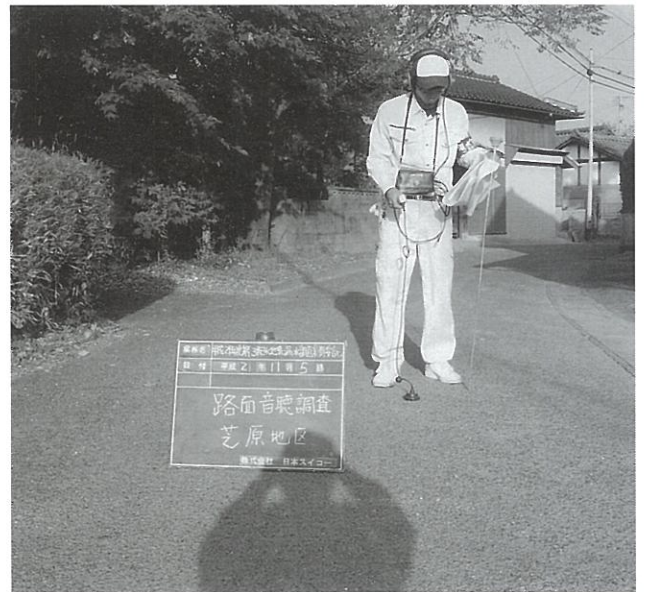
その評価替えを21年度に行ったが、土地の評価が下落したことにより評価額が下がり税の収入が減少した。

ふるさと甲佐応援基金について

Q 積立金の中にもふるさと甲佐応援寄附金があるが、これについては甲佐町内外の方々から大変ありがたい寄附金が寄せられている。

A 21年度は何件の寄附が寄せられているか。

A 21年度実績として、27件ある。
金額は180万6000円の寄附があつている。



漏水探知器による漏水調査

甲佐町水道の有収率について

Q 水道の有収率はどのくらいなっているか。
また、有収率の向上策は。

A 有収率については、平成20年度は、配水量が1,131,402m³、給水量が882,494m³で有収率は78%。
平成21年度は、配水量が1,205,596m³、給水量が934,367m³で有収率は77.5%

である。

有収率の向上策としては、漏水防止のため漏水調査を行う。

また、老朽管の更新を図り、有収率の向上に努めたい。

町有林管理委託料について

Q 町有林管理委託料が21年度はかなり増額となっているが。

A 21年度においては、坂谷及び東寒野地内にあ

る町有林の間伐を森林組合に委託した関係で委託料が増額となった。

急傾斜地崩壊対策事業について

Q 急傾斜地崩壊対策事業負担金が予算計上されているが場所は。

A 六谷地内の集落の裏山が平成18年の大雨により崩壊したため、その箇所を防護という形で擁壁を施工する。

県工事で施工されるので町が事業費の三分の一を負担する。

新幹線くまもと創りプロジェクト上益城地域推進本部負担金について

Q 新幹線くまもと創りプロジェクト上益城推進本部とはどんなことをするのか。

A 新幹線が平成23年に開通するが、熊本全域で新幹線元年に向けて色々なプロジェクト事業をやっている。

上益城の平坦地では定住、山間地では観光ということで事業推進している。

それに伴うパンフレット作成や阪神戦略事業活動を行っている。



急傾斜地崩壊対策事業が実施される六谷地区

一般質問 と答弁



北畑常博 議員



農業問題について

北畑議員

水田の消毒方法について、役場として農業関係や専門家と話し合ったことはあるか。

本田産業振興課長

農業の助成、あるいはJAから農業に対する指導方法等について、打合せなどはあっていない。

ただ、8月に稲の出穂期における「うんか」の発生という事で、防災行政用無線を通じて、関係農家に消毒の徹底について、お知らせをしたところである。

北畑議員

今は熊本市になったが、

環境問題について

北畑議員

城南町では無人ヘリコプターを使い、反当いくらで水田の防除をやっている。

我が町でも、全体で話し合って、なるべく負担のかからないような防除の方法はできないか、町としての考えをお聞きたい。

本田産業振興課長

米の病気に対する対策として、共同防除の件については、減農薬を推進しながら、米の被害がないように、また、あまり害虫が発生しないように、普通作部会のなかで、JAの担当者と対策を考えたながら、協議を行っていきたくと考えている。

環境問題について

北畑議員

宮内の甲佐発電所の件で、今後の計画等について、町に対して何か相談があったかお尋ねする。

井上企画推進課長

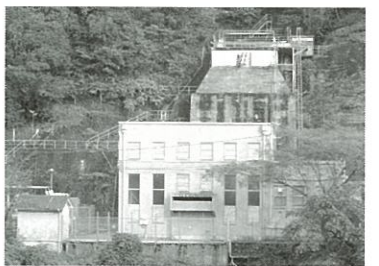
九州電力との正式な協議は、行っていないが、今現在、環境調査、生態系調査、また水質調査、水の調査、そういった環境調査を実施しているというのを伺っている。

北畑議員

本町では、地下水の調査をしてあると思うが、どのようなになっているかお尋ねしたい。

奥名町長

ただ今のご質問は、水



甲佐発電所

段階だと思うが、その進捗状況はどのようなになっているか。

村上学校教育課長

現在の進捗状況については、7月13日に中学校改築設計の入札を行い、株式会社マックという設計会社が落札している。

また、並行して学校及び学校関係者、教育委員、町長部局の課長等により甲佐町中学校改築検討委員会を立ち上げている。

2回目の検討委員会から受注者である株式会社マックも会議に参加し、

教室等の配置、また防犯対策等について協議を行っている。

その時は、120メートル掘削し、水道法による40項目の水質検査の結果、7項目において基準値を超える値が得られて原水のままでは飲料に適さないという結果が出たと聞いている。

そのため、試掘地点において大量の地下水を期待することは難しいと考

教育問題について

北畑議員

中学校の建築は設計の

新しい中学校の模型等を使用して説明できればということですが、今、考えている。

緒方哲哉 議員



簡易水道への町の支援について

緒方議員

宮内地区からは、今までに何回となく、上水道の整備の要望がなされているが、実現していない状況である。

上水道のあるところは、きれいな水が飲めて、簡易水道のところは、濾過



簡易水道の導水管（宮内広瀬地区）

お話しの中にあつたように、いわゆる、飲料水供給施設については、負担金の問題、それから戸数の多いところ、少ない

平成21年度には、宮内地区の上揚・安平地区の上水道整備が完了した。

奥名町長

へ町の支援策は考えておられるか。

機、滅菌機はあつても機能しない、また、夏日の続く日は、たまに濁水もあり、梅雨時期には、濁水等を使用しなければならぬということ、同じ甲佐町に住みながら、不公平さを感じられる。そこで、簡易水道事業

行財政改革について

緒方議員

消防団の再編、統合について、甲佐町には、8分団、29部の組織があるが、消防自動車等は、郡内でも一番恵まれていると思われる。

しかし、消防団員数15人以下が15部もあり、大半の団員が町外への勤めなので、非常事態を想定すると、このままでいいのか、地域と話し合いをしながら、真剣に取り組んでいただきたい。

奥名町長

消防本部会議の中でも、今後どうやっていくのかというような話は出ています。

ただ、総論的には理解

と場所など、そのようなハンディがあつてはいけないというような指摘も趣旨のなかに含まれていると思うが、現在、補助要項等の見直しについても検討しているところである。

安全・安心の町づくりを進めて行くうえでは、消防団の組織の充実というようなことは、大きな問題であるので、さらに消防団本部から、各行政区の区長さん、それから、地域の関係者の方々と、この問題の解決に向けて、実情等も踏まえながら、さらに研究し、検討していきたいというような考えを持っている。

部落行政の再編について

緒方議員

行革の中でも、行政区の統合・再編ということ、行政区として本来の機能を果たせない、小規模部落行政区を再編するとあるが、その進捗は。

奥名町長

消防の再編と同じく、難しい問題である。やはり、地域として本



消防点検

緒方議員

来の機能を果たせるような組織に再編しなければならぬというところが、一番大きなところではないかと考えている。

道路整備について

県道稲生野甲佐線、甲佐高等学校裏から国道443号にタッチする間が非常に狭くなっているの

で、車の離合すら簡単に出来ない状態である。町から、県への要望は。

西坂建設課長

高校裏の幅員が狭いということと、浸水するというところで、県へは毎年、事業要望を行っている。

奥名町長

バイパスについては、県で進めるか、町で進めるか、その見極めを早くやる必要がある。

大町のほうに入る道路については、区長さん、関係者からも、要望が強い箇所ということで認識しているし、ランク的にも非常に重要だと考えているので、しばらくお待ちいただきたい。

西坂

親議員



地域振興の核たる道路網の整備に全力を

田口橋の架け替えは

西坂議員

30年来の懸案事項である田口橋の架け替えについて、県議会では新しい答弁も出ており、今がチャンスと考える。

方法として、架け替え新設、また、現橋梁の耐震補強による幅員の拡張などの工法もある。

また、自転車や歩行者の今日の安全通行のため歩道橋の設置など、田口橋の解決のために行政努力を求む。

奥名町長

歩道橋設置については、新しく架け替えた場合、



田口（新地地区）の緑川旧堤防道路

二重投資になり、慎重な対応が必要と考える。しかし、町側の熱意に県の理解も進んでおり、強力で要望活動等を展開していきたい。

広域農道（益城〜御船〜甲佐）の現状は

西坂議員

地権者の用地買収の件で何年も停滞しているが、完成予想、現状はどうなっているのか。

奥名町長

上益城平坦地区の広域農道については、地権者

の同意に至っていない。町としては、何とかして同意いただくよう協力体制をとり、事業に終結を見たいと考えている。

本田産業振興課長

現在、事業への反対者の方がおられ、用地買収も難しく、う回路の用地買収を進めている。

県道宇土甲佐線（津志田・田口）地内改良促進を

西坂議員

津志田堤防の完成を急ぎ、田口（新地地区）の旧堤防の嵩上げと津志田地内の改良を進めることが、宇土甲佐線の道路改良につながるかと考える。

また、宇土甲佐線は乙女橋が終点であり、これを白岩工業団地まで延長して宇土御船線とし、また火葬場へとつなぐことにより甲佐町民の利便性が図られると思うが、町長の考えは。

奥名町長

田口の新地地区の緑川

旧堤防の嵩上げと幅員の拡張による道路改良、また、乙女橋から白岩工業団地方面、白岩から火葬場へつなぐ道路については、県としては、詳細設計、調査が必要という立場に立って、1メートル程度の嵩上げは可能という話があつている。

町としても総合的に検討していきたい。

また、乙女橋から白岩

工業団地方面、御船音大方面への道路、これを県道にという件については、乙女台地の開発も含めて町の活性化を図るうえで非常に大きな骨格道路になると考えている。

町としても真剣に取り組みたい。

介護保険制度について

西坂議員

在宅介護の場合、働きに行けないということでも経済的にも影響が出てくる。そうした家族に対する慰労金や支援金等の方法は無いのか。

また、介護抱え込みで悲惨な事件も起きており、そういう事態にならないよう、町独自の支援対策は検討できないのか。

奥名町長

在宅介護への町独自の支援については今後の国の介護制度、あるいは障害者自立支援制度の見直し状況を見ながら判断し

町職員採用について

西坂議員

町で生まれ育ち、一生懸命勉強し、甲佐のために恩返ししたい、そういう人が職員採用を希望された場合、可能な限り町民の中から採用したらどうか。

ペーパー採用が基本とは思いますが、甲佐で学び育ち、甲佐で働く愛町心旺盛な人材こそ町の繁栄へつながり、町民の定住促進の意味からもよいと思うので配慮を要望しておきたい。



乙女橋から見た御船町の白岩工業団地

本田 新 議員



町道白旗増見鶴線と
水路改良について

本田議員

町道白旗増見鶴線と水路が御船町との町境の所で行き止まり状態になっているので用水の管理をめぐって問題が生じている。御船町と協議のうえ、道路と水路を上げることは出来ないのか。

また、出来ないならば、灌水問題を土地改良区や



町道白旗増見鶴線先の用水路

地元の意見などを取り入れて用水路、排水路を作ってこの問題を解決して欲しい。

奥名町長

御船町においては、町道に認定されていない状況から、買収を行い、道路整備が行われるかどうかについては、非常に難しいと考える。

また甲佐町の町道としてだけ整備するというのも難しい面がある。

そこで、農道あるいは排水路をどのように整備していくかは、受益者側の負担と協力が必要となる。

この問題を解決するため担当課の方で十分に研究して何とか解決を図りたい。

甲佐の自然体験学習
と学力向上に向けた
取り組みについて

本田議員

甲佐町を見る時に、熊

本市に通勤できる自然豊かな地域であり、子育てをする環境としては魅力のある土地柄である。

今の子どもたちは、この豊かな環境を活かした教育や自然体験が享受できているか。

また、子どもの成長を考える時、確かな学力が必要だと思うが、学力向上に向けた取組みと全国学力調査の結果を教えてください。

山内社会教育課長

夏休みに、自然体験活動として、井戸江キャンプ場を利用し、野外活動に必要な技能を体得することや食事作り、川遊びなどをとおして楽しい仲間作りを行う「あつまれ子どもたち」や環境をテーマとして、自然の大切さを考える自然学習の事業として「甲佐環境こども探検団」を実施している。

村上学校教育課長

全国学力調査の個別の結果については、公表は難しい。

町内の各小学校におい



あつまれ子どもたち

ては、総じて全国、県レベルより上位にあるが、中学校に関しては県のレベルより若干下回っていると認識している。

本町だけの取組みとして「甲佐の教育」という冊子を毎年学校の先生方の一年間のテーマを定めたいものとして発行している。

その中で、特に中学校では思考力、判断力、表現力などを育むためにメモをとる活動を取り入れたり、甲佐式熊本型授業にも現在取組み、学力向上に向けた努力を行っている。

国の所得補償制度導入
による変化について

本田議員

本年度から、国は自給

率向上を図るため、戸別所得補償制度を導入した。本町では、転作物物の作付けも終わり、一応調査も終わっているのので、国からの補助金の概算の数字が出ていると思う。

その増減について、把握している分を国の制度と共に説明して欲しい。

本田産業振興課長

昨年度は、転作の奨励金として、全体で7300万程度交付されている。本年度は、米の作付けに反あたり1万5000円、さらに米価の下落分については補償金もある。

また、飼料稲や米粉については8万円、二毛作助成金として1万5000円などを推計すると、約2倍程度の1億5000万円が交付予定である。

本田議員

今年度は飼料稲が5割程度増えているが、反あたり8万円と高額なので、さらに拡大が出来ないか、お尋ねしたい。

本田産業振興課長

畜産農家の意向とJAの種子の問題もあるので、

詳しい調査とJAとの協議を重ねて推進を図っていききたい。

本田議員

今年の認定農業者同志会総会の時に、西田税理士を講師として講演会を行った。

その中で認定農業者に与えられている特典が活かされていないから農業に魅力を感じないし、後継者が育たないなど、認定同志会が抱えている問題を指摘された。

行政としてその問題解決策をどのように考えるか。

本田産業振興課長

認定農業者は、本町農業の中心のリーダーであり、地域農業の担い手でもあるので、さらなる発展を願っている。

講師が指摘された農業資金や機械の導入、あるいは農地の集積などの優遇措置があるので大いに活用して欲しい。

今後は情報の提供や交換を進めながら生き残れる環境づくりを進めていきたい。

井 芹 しま子 議員



介護保険料の所得段階の見直しは

井芹議員

介護問題は高齢者にとって大きな不安の一つである。介護保険制度が安心して使えるようにするために、保険料・利用料の負担軽減策が必要だ。

保険料については、現在の6段階の所得設定から、より負担能力に応じた段階設定を検討すべきでは。

内山福祉課長

熊本市などは市民税の区分を10段階に設定している。非課税の区分は甲佐町と同じ状況であり、高所得者が多い自治体は

区分を増やしているが、本町の場合、現在の設定が適切だと考える。

利用料軽減策の拡大を

井芹議員

所得に関係なく利用料の一律負担は、使いたくても使えない状況を広げている。

決算上も予定を上回る予算を残しており、また、安定化基金の負担もゼロであり、現在の第4段階にも軽減策を広げるべきだ。

内山福祉課長

これ以上の利用料の軽

減策は介護保険料に、即ちね返り、介護保険のさらなる値上げが必要となり、今以上の軽減策は考えていない。

介護保険制度改正の要望を国へすべきでは

井芹議員

介護の沙汰も金次第ではなく、介護が必要な人が安心して利用できる制度に変えるため、国庫負担を増やすよう国に要望すべきでは。

奥名町長

県においては、次期改正に向けて検証作業も行われ、国への改正を求める提言もまとめられると聞いている。

今後、国や県の動きを

十分見守りたい。

職員のメンタルヘルス対策は

井芹議員

職員は町の将来を担う大事な人材であり、健康で十分な能力を発揮し、町民へのサービス増進に頑張ってもらうことが町民の願いでもある。

これまでも、職員のメンタルヘルスの問題は取り上げられてきたが、現状は改善しているのか。また、職員配置の問題はどうか。

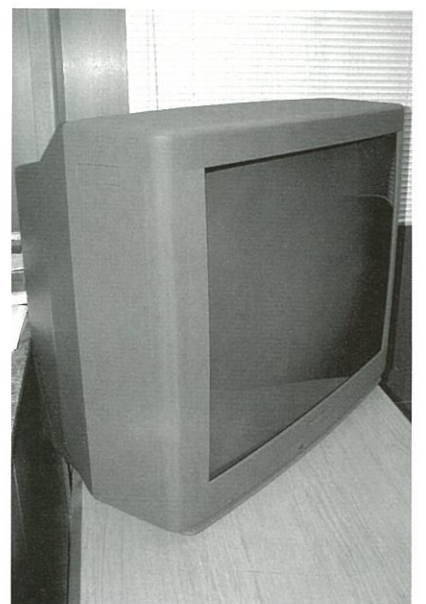
甲斐総務課長

職員のメンタルヘルスについては、平成20年度より毎年実施要項をつくって対策を充実させている。

アンケートによる心理検査の分析、学習会、専門家による訪問相談などを実施している。

奥名町長

職員の配置は、住民サービスに支障を来すことがないよう、また、行政が停滞することのない



買い替え等が必要なアナログテレビ

ように職員の資質向上やエキスパート育成など、総合的な判断が必要になる。全職員から自己申告カードも提出させ、適材適所の配置にも心がけている。

また、職員配置の問題はどうか。

井芹議員

地デジ移行での弱者対策は

井芹議員

地デジ移行まで1年を切ったが、はなはだ国による弱者対策は不十分である。テレビは私たちの生活にとってなくてはならないライフラインでもある。

甲佐町においては、一人残らず地デジへ移行できるようにになっているのか。

特に高齢者、低所得者、

弱者対策はどうなっているのか。町の実態はどうか。その調査と対策はあるのか、お尋ねしたい。

内山福祉課長

高齢者、低所得者、弱者対策は基本的に国政策であり、現時点で実態調査の考えはない。

井芹議員

不十分な国の対策によって、100万人単位でテレビ難民が出ると思われる。

町は、アナログ停波を延期、また、現在のよう

に地デジもアナログも両方見られるようにするなど、多方面からの検討を国に要望することを求める。



宮本修治 議員



第6次総合計画基本構想及び過疎計画について

宮本議員

両計画の全体の概要について説明をお願いする。

井上企画推進課長

総合計画は、本町が目指すべき将来像を明らかにし、それを実現するための総合的、計画的、かつ体系的な町づくりの指針となる、町の最上位となる計画である。

又、過疎計画は、過疎地域自立促進特別措置法という法律に基づいて策定した、平成22年4月から平成28年3月までの計画である。

宮本議員

総合計画の中において

は、生活道路を含めたところで、地域に偏りが無いように、必要などころに、道路は作っていたらきたい。

奥名町長

生活道路については、いろんな評価項目の中で点数を加算したところで総合的な点数が出てくるので、それを採択の条件とし、整備の計画路線として登載する。

地域によって隔たり、偏りが無いように、取り組んでいきたい。

鮎祭りについて

宮本議員

鮎祭りの日程及び催しのやり方についてはどうなっているか。

本田産業振興課長

本年度の日程については、7月25日ということで開催した。

平成16年度までは、7月24・25日の2日間にか

けて開催していた。

宮本議員

鮎祭りに対して、各部落から寄付金をいただいているが、その使い方は

本田産業振興課長

各集落からの寄付金が約135万円ある。その半額程度の70万円を鮎祭り事業に充当し、残りについては、観光協会、年間事業費に充てる予定である。

ろくじ館の運営及び活用について

宮本議員

再三質問しているが、その検証ということも含め、誰もが出品できるような体制は出来ないかというところについて、その後どうなっているか。

本田産業振興課長

県の補助事業を受け、青空市場と3か年間の契約を結び、営業時間の延長や34名の方の追加登録かなされ、多くの農産物が出店できることで、購買者、あるいは販売額も平成20年度は、約248万円、21年度は302万円と増えている。

宮本議員

月に1回程度、じいちゃんやばあちゃんたちの小遣い銭稼ぎなど、色々な目標を持った、テナントでの野菜等の出荷は出来ないか、お聞きしたい。

本田産業振興課長

ろくじ館の駐車場を利便してのテナントでの販売ということであるが、運営委員会で購入



あゆまつり

され、昨年の11月から実施されている。

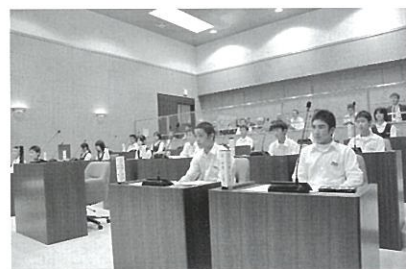
今後は、登録をされない方が、店頭販売ができるような体制づくりができないか、再度協議を行っていききたい。

子ども議会について

宮本議員

昨年度の子ども議会は、生徒たちにとっては、将来に向けての勉強になったのではないかと思っている。

今後、将来を担う子どもたちが、夢と希望を持つような住み良い町づくりをしていくためにも、役場の仕事内容、議会の仕組み等を勉強して、積極的に町づくりに参加し



子ども議会

てもらえるよう、子ども議会を継続していただきたい。

奥名町長

生徒会が中心として開催がなされ、良い経験ができたという評価も得たところである。われわれ町の執行部としても、子どもたちの考え方を知らうえて、有意義な子ども議会だったと思っている。

また、早い時期からの町の現況、課題あたりに興味を持ってもらい、町政を身近な問題として捉えてもらって、近い将来、甲佐町の政治経済を担う、そういった人物が輩出してくればとの期待を持ち、継続していききたいと考えている。

傍聴席から一言

「若者が、やる気を出せる場所を」

田原 宮 本 奈 弥

就職難の昨今、私の周りでもニートやフリーター・派遣の子供達が数多く見られます。御多分に洩れず、我が息子も就職浪人中の身であります。

高校では、求人も少なく、大学進学を勧められ、大学では大学院進学やわざと単位を落とし、大学に残る生徒もいると聞いています。

『近頃の若者は根性がない、やる気がない』それも一つだとは思いますが、地元で就職したいと思っても、そんな若者を受け入れる、受け皿が少ないことも事実です。

もっと、若者が目を輝かせ、やる気を出せる場所を地元を増やしていただけるように、尽力していただければ、子供達の未来も明るくなるのではないのでしょうか。



第2回子ども議会

10月18日(月)に、甲佐中学校の生徒18人と町執行部による「第2回子ども議会」が開催された。

議員の提案により、町の将来を担う生徒たちに町政に関心を持ってもらおうと、町が昨年からはじめた。これに先立ち、9月13日には、9月定例会の一般質問を傍聴し、本物の一般質問を実際に見学したり、10月15日には、議場において、約一時間半かけ、リハーサルを行った。

当日は、3年の皆本凌太君と田上美咲さんが議長、副議長役(途中交代)を務め、一般質問を行う議員役には、そのほかの2、3年の生徒16人が当たった。質問の内容については、身近な課題についての質問が多く、執行部から前向きな答弁を引き出す場面もあった。

質問者は次のとおり。

- 一 3年 芳野 凌一くん
- 二 2年 梅本 祥太くん
- 三 3年 北野 裕人くん
- 四 3年 甲斐 元貴くん
- 五 3年 赤星 恵利香さん
- 六 3年 高崎 真帆さん
- 七 3年 山本 阿結子さん
- 八 3年 岡田 裕介くん
- 九 2年 伊藤 大世くん
- 一〇 2年 太田 幸志郎くん
- 一一 3年 林田 健成くん
- 一二 3年 上原 世那さん
- 一三 3年 渡辺 大貴くん
- 一四 2年 梅本 龍太くん
- 一五 2年 志免 典佳さん
- 一六 2年 永田 美智さん



子ども議会の様子

※前号134号の議会だよりの中で、「傍聴席から一言」欄の住所とお名前が、正しくは、「横田 和田勝也 友子」様の誤りでした。訂正してお詫びします。

編集後記

議会研修で、山梨県南アルプス市の旧櫛形町に地域振興と自己所得向上(理事長談話によると年30万円〜50万円の収入で、年金の足しになる程度)を目指して頑張っておられる女性団体を見ってきました。

この女性団体は、「あやめの里特産品加工組合(134名)」を設立し、市の施設(加工施設「ほたるみ館」・販売施設「まち

の駅)を指定管理者として契約され、農産物や加工品の製造販売を手がけておられます。仕事のあとでの談笑やわずかな収入を楽しみに、「生きがいづくり」としてしていると話されました。甲佐町でもぜひ取り入れたい事案だと思いました。

- 議会広報編集特別委員会
- 委員長 本田 新
 - 副委員長 本郷 昭宣
 - 委員 緒方 哲哉
 - 委員 宮川 安明
 - 委員 井芹しま子